



昭和学院中学校・高等学校

〒272-0823 市川市東菅野2-17-1 TEL 047-323-4171~5

http://www.showa-gkn.ed.jp/js/ FAX 047-326-5310

オンライン発表会

吹奏楽部の演奏で踊るバトン部(無観客のメインアリーナにて)



▲ 司会を務めた大谷くん(左)と生徒会長の戸田くん(右)
(先生方の撮影で各教室へ配信)

10月17日(土)桜和祭の代替となる「オンライン発表会」が行われた。2月に第1回、2回の桜和祭検討会を終え、第3回に向けて準備をしていた矢先、全国一斉臨時休業となった。桜和祭を実施するか見通しが立たない中でも、生徒会を中心に「どう行うか」「コロナ禍のリスクを避けながら何ができるか」と話し合いを重ねた。しかし6月、桜和祭の中止が正式に決まった。同時期に、部活動の各大会も中止となり、高校3年生が引退の場を失ってしまったことを知った。そこで、文化部を中心とした発表の場をオンラインで行う計画を始動させた。桜和祭や大会などの緊張感を実現するため、事前に録画した動画配信ではなく、Zoomの会議システムを用いて、各教室にLive配信を行う無観客での発表形式をとった。どの参加団体も、どのように教室に映るのかという不安が大きく、困惑した様子であった。吹奏楽部の部長は「大切な音が届かなかったり、途中で途切れてしまったりしないか非常に不安だ」と話していた。生徒会役員は「全員が楽しめる会にしたい」と連日、音や映像の確認、美術部や書道部と協力して舞台装飾に尽力した。教員も生徒の思いに応えたいと安定した映像を配



▲ 美しい音色を奏でた弦楽部

信できるように各機器や各教室のWi-Fiの電波状況の確認を徹底した。当日、生徒会長の挨拶でスタート。各教室には、会場であるメインアリーナの映像が電子黒板に映し出された。カメラ担当の教員が司会者や発表者に張り付き撮影する姿は、TV中継そのものだった。高校3年生の最後の発表の場という参加団体もあり、緊張感がメインアリーナを包んでいた。全校生徒に見てもらえることが嬉しくもあり、緊張の要因にもなっていたようだ。教室からは「すごいなあ」「こんな活動をしているんだ」などの声が聞かれ、1つの団体が終わるたびに拍手する姿も見られた。パソコン部や地域研究部など、発表する場の少ない部も全校生徒に普段の活動の様子を伝える良い機会となった。また、クラス賞と個人賞を用意した抽選会を行い、鑑賞する生徒たちも楽しめた発表会となった。

コロナ禍で大会や行事がなくなる中、Live配信という新しい形態での発表会は、生徒たちにとって記憶に残る行事となったであろう。来年桜和祭が実施できるかどうか、今はまだわからない。しかし、生徒や教員、そして保護者の方や卒業生とともに、多くの方が満足でき笑顔あふれる桜和祭を目指していきたい。

教室で鑑賞する生徒たち



▲ 教室で鑑賞する生徒たち

会を盛り立てた生徒会役員



▲ 会を盛り立てた生徒会役員

エンパワーメントプログラム



▲ オープニングセレモニー

8月24日(月)~28日(金)の5日間、高1 IAコースと中3~高2の希望者、合計44名が参加した。エンパワーメントプログラムとは、生徒5~6名に対し、1名の留学生がグループに入り、ディスカッション、プレゼンテーションなどを全て英語で行っていくものである。Black lives matter, Positive thinking, My identityなどをテーマに、グローバルな問題に対する自らの意見を発信することで、自信を持



▲ 手遊びゲーム

て自分を表現できるようになるプログラムとなっている。初めは不安でいっぱいだった生徒たちも、留学生とのコミュニケーションを通して英語で話すことが楽しくなっていたようだ。最終日には、一人ひとりプレゼンテーションを行い、堂々と英語で話す生徒たちの姿がとても頼もしく見えた。英語への関心が高まっただけでなく、新しい自分を発見することもできたようだ。また、このプログラムで学んだディスカッションの方法は高1のIAコースで実践し、週に1回ネイティブの教員を交えて白熱した時間を展開している。参加した生徒たちの成長を見ると、来年の開催が今から楽しみである。



▲ 最終日のプレゼンテーション

参加した皆さんの感想



高1
宮川まどかさん

始まる前は自分の英語のスキルに不安がありました。しかし、実際にプログラムで問われた力は議題に関する知識や私自身の意見でした。留学生はどんな議題でも自身の考えを明確にしていました。私と意見が分かれても、一切否定することなく聞いて下さったので、発言しやすい雰囲気でした。中身の濃い5日間で学んだことを生かしながら、今後の学校生活でも色々な方向にアンテナを張り、成長していきたいです。

自分にとって、このプログラムは挑戦の5日間でした。初めは英会話力にも積極性にも自信がなかったのですが、自分の意見を発言する機会が沢山あったので、いかに適切な言葉で伝えるかを仲間と協力し、試行錯誤を重ねました。ネイティブの先生からアドバイスも頂き、「習うより慣れる」の精神で最終日のプレゼンまでに辿り着く事ができました。今回は更に上達できるように準備しておきたいです!

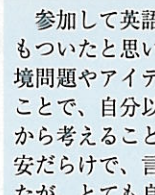


高1 (IAコース)
野崎桜太郎くん



高2
藤井康平くん

去年カナダでのホームステイに参加して、英語で話す事の楽しさを知りました。しかし、英語での議論やスピーチは、ホームステイの時よりハードルが上がるため、参加するかどうかが悩みました。5日間のプログラムを終えた今、本当に参加して良かったと思っています。自分の伝えたい事を意識すると自然と言葉が出て、話せるようになり、知識ではなく伝えようとする心が大切だと学びました。



中3
冨田菜乃さん

参加して英語を話す力だけでなく、話を聞く力もついたと思います。普段あまり深く考えない環境問題やアイデンティティについて議論し合ったことで、自分以外の意見を聞き、様々な人の目線から考えることの大切さを学びました。最初は不安だらけで、言いたい事が言えず失敗ばかりでしたが、とても良い経験になったと思います。このプログラムは、失敗する事は恥ずかしくない事だと気付かせてくれました。

クラス紹介 1の1 (IAコース)

担任のお2人にクラスの様子を
教えていただきました。

『新明解国語辞典第七版』によると「自治」とは「団体や組織が、自分たちのことを自己の責任においてきちんと処理すること」とあります。1年1組はまさに自治的集団を実現しつつあるクラスであると感じています。例えば、クラスで問題が起きた際には、教員が指導して終わるのではなく、なぜその問題が起きてしまったのかをクラス全員で話し合います。そして原因究明することに加え、どのような対策を講じれば、問題を未然に防ぐことができるようになるかを一人ひとりが責任もって意見を出し、それをもとに対策を全員で考えます。また、その対策がうまく機能していないと感じた際には、自分たちで考えた対策を再考することもあります。こうした経験、活動を通して、1年1組は自治的集団を自分たちで作りに上げている過程にいます。



▲ ハロウィーンを楽しむ1の1



ケビン先生と中森先生

What can I say about this class? The IA classroom really is a loud, noisy, cheerful and positive classroom. There is a real mix of English in the classroom with some students still finding their voice to others who are nearly fluent.

There are others who speak American English who love to battle with me as I teach and speak British English. The students are incredibly curious about everything and sometimes a little cheeky. However, in this classroom, we encourage students to be open, frank and honest. We want students to voice their opinions and not be afraid to complain or show their true emotions. We don't learn English here, but we learn many things IN English. Learning many things about history, society and the world we live in in English really helps keep our students focused and curious.

It's an amazing class with the most amazing students and I am super stoked to be helping nurture their English here in Showa.

(日本語訳)

このクラスについて何が言えるでしょうか? IA教室はみんなが積極的で元気がふれる教室です。ネイティブレベルの生徒から、そのレベルには程遠い生徒もいますが、みんな一生懸命についていこうとがんばっています。

私自身がイギリス英語を話しかけていますので、アメリカ英語を話す生徒はすぐに比べて冗談を言いたがります。生徒たちは驚くほど好奇心旺盛で、時に自由奔放です。しかしながら、この教室で私たち教師は、生徒たちには常に正直であるように指導しています。私たちは、生徒たちに自分自身の意見をしっかりと持ち、不満を言ったり、本当の感情をみせることを恐れてほしくないのです。私たちはここで英語を学ぶではありません。私たちはここで、多くのことを「英語で」学ぶのです。歴史、社会、自分たちの住む世界について沢山のことを英語で学ぶことで、生徒たちは常に様々なことに興味を持ち続けてくれるはずです。

本当に素晴らしいクラスに素晴らしい生徒たち。私はここ昭和学院で彼らの英語教育に携わることができて、本当に光栄です。

SHOWA GAKUIN

学年レクでコロナに
打ち勝て!

リフレッシュデー

9月18日(金)、高校は午前、中学校は午後
学年レクリエーションを実施しました。



▲ 司会の二人

高3はオンラインで多種多様な〇×クイズを実施した。これは生徒たちの発案で、当日までのクイズの準備や、当日のクイズ原稿なども生徒主体で行った。まずは各クラスでクイズの予選を行い、最終的に優秀者が第3アリーナで優勝決定戦を行った。今年は新型コロナウイルスの影響で、スポーツ大会や桜和祭といった、高校3年間の集大成の大きな行事も中止になってしまった。そのため、今回の企画は生徒たちの主体性がより感じられるものになった。そして、本格的な受験勉強への生徒のよい息抜きとなったので、ここから進路の実現のために、全力を尽くして頑張ってもらいたい。



▲ 〇×クイズの様子

高3

高3はオンラインで多種多様な〇×クイズを実施した。これは生徒たちの発案で、当日までのクイズの準備や、当日のクイズ原稿なども生徒主体で行った。まずは各クラスでクイズの予選

中3

中3は、学級役員が中心となって、屋外と屋内で行う学級対抗競技の企画や道具の準備などを行った。人工芝では、ビニールテープをしっぽに見立てたしっぽ取りと、ぐるぐるバットや網くぐりなどを取り



▲ しっぽ取り



▲ ドッジボール

入れた障害物競走を行った。またアクティブコートでは、サッカーを実施した。外から戻り休憩を経て、第3アリーナでは学年全員でユーロビートの曲に合わせて踊った。その後のドッジボールでも盛り上がり、白熱した試合が行われた。また、クラスTシャツを製作し、各クラスのカラーが表れるものが出来上がった。中学校最後の学級で、準備の段階から団結することができ、良い思い出の1ページになったことであろう。

高2

高2は、前半と後半に分けて活動した。前半は各クラスでの実施となった。ホームルームの時間等を通して、生徒主体で内容を考え、映画鑑賞や人狼ゲーム等、リラックスして楽しむことが出来た。後半は学級対抗でドッジボールと玉入れを実施した。これは生徒による3密を避けるための打合せが難航したなかで生まれた企画である。本来高校2年生は、高校生活において勉学・学校行事と様々な場面で一番活躍出来るはずの学年である。しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響で様々な行事が中止になり、クラス一丸となって何かをやり逃げる場面がなかった。このリフレッシュデーで、クラスを1つに団結させることができ、生徒は充実した1日を過ごせたようだ。



▲ ドッジボール



▲ 玉入れ

中2

中2は、第3アリーナとメインアリーナでレクリエーションを行った。当日を迎えるまで、各クラスの代表生徒たちは毎日のように会議を行い、どうすれば「みんなが楽しめる1日にできるか」を考え、準備を重ねてきた。そして迎えた当日、第3アリーナでは「クラスの垣根を超えた学年全体の交流」をテーマに、グループ作りやジェスチャーゲーム、風船バレーといった多種多様な種目を行った。メインアリーナでは「クラスの団結力を深める」ことをテーマに、クラス全員参加の障害物リレーとクラス選抜の目隠しチャンバラを行った。代表者たちの想いも学年全体に伝わり、それぞれの種目で全員が力を尽くし、笑顔で過ごせた時間となった。



▲ 風船バレー



▲ 目隠しチャンバラ

高1

高1は「3密の回避」と「安全・安心」を心掛け、三部構成での実施となった。第一部はドッジボール(メインアリーナ)と長縄跳び(校庭)のいずれかに分かれ、徐々に盛り上がってきたところで、校庭で各学級選抜のリレーが行われた。第二部は腕相撲、のど自慢など、各教室と校舎内の数カ所に分かれて行われたが、どの演目も随所に創意工夫が見られるものばかりであった。第三部のオンラインでの高校生クイズ大会が自教室で行われた後、厳かにフィナーレを迎えた。コース・クラスに関わらず、当日は各学級の級長・副級長が司会進行や撮影等で大いにリーダーシップを発揮してくれた。普段は目に留まることのない才覚を持つ生徒が予想以上に多いことに、学年の教員全員が大変驚いている。



▲ 長縄跳び



▲ ドッジボール

中1

中1は、企画・運営ともに生徒が中心となり、自分たちでこの1日を作り上げた。各学級の代表となった生徒たちは、何度も打ち合わせを重ね、それを基に学級で充実した話し合いが行われていた。屋内では宝さがしとクイズ、屋外では障害物リレーとドロケータが行われ、全員が協力したことで企画は見事に成功した。運営の中心となった生徒たちは、うまくいかなかったところを即座に改善し、より良いものにしようと率先した行動をとっており、その姿には大きな成長を感じた。次に生かそうとする姿勢があったことも素晴らしい光景だった。入学以来大きな行事が行えず、学年全体で行った企画は今回が初めてで、仲間と充実した1日を過ごせたようだ。



▲ ドロケー



中1 集合写真

SHOWA GAKUIN

SGアカデミー ～未来講座～

9月29日(火)、「のぞいてみよう！国際協力～タンザニアの教育現場から～」と題し、上田耕二氏(ADRA Japan)にご講演いただいた。上田氏は公立高校生物教師として勤務した経験を活かし、JICA海外協力隊の理数科教師としてタンザニアで活動した。不十分な教室設備ではあったが、様々な工夫を凝らして授業を行うとともに、野球部を結成してその指導にもあたった。講演では、タンザニアの教育状況や教育が子供達に与えた影響、国際協力における継続性についてお話くださった。厳しい暮らしの中、自分の人生を歩みながらも



現地での授業を体験

親を助ける為には、教育が唯一の成功への道だと信じる女性の話が特に印象的だった。

10月16日(金)、「35年間ラジオで英語番組を持って」と題し、遠山顕氏(COMUNICA, Inc.代表)にご講演いただいた。遠山氏は場の重視

と演劇的要素を組み込んだ「話学」へのフレンドリーな案内役として、英語習得・異文化コミュニケーション・ユーモアの分野での提言と実践などを行っている。講演では、緊張時に不意に投げかけられたユーモアある言葉に救われたご自身の経験や英語劇を通じて学んだ英語表現の多様さ、そして英語は声を出すことが大切であるとお話くださった。



▲ 遠山氏の早口言葉で生徒は思わず笑顔に

11月17日(火)、「放射線、その発見と現社会での利用」と題し、青木康氏(住友重機械工業株式会社)にご講演いただいた。青木氏は放射線物理化学がご専門で、BNCTがん治療用サイクロトロン of イオン源及び中性子検出器の開発にも携わっている。講演では、放射線の発見の歴史を振り返りながら、放射線利用の現状を医療分野のがん診断・がん治療を中心に紹介してくださいました。

スピーチコンテスト

11月16日(月)伊藤記念ホールにおいて英語スピーチコンテストが開催された。中学生27名高校生16名、合計43名の生徒が参加した。高校生部門では昨年度の市川市、千葉県のコンテストの優勝者も含まれ、近年で一番レベルの高い大会になった。審査員長のケビン先生から「参加者全員がすばらしく、参加者全員が勝者だと思います。」とお褒めの言葉をいただいた。生徒たちの今後の活躍に期待したい。結果は以下の通り。

高校生部門 (16名参加)

- 1位 大山幸奈 (3 A)
- 2位 ミャムーキン (2 I)
- 3位 竹村 季 (1 D)
- 4位 荒瀬史歩 (1 D)
- 5位 吉川真梨花 (2 B)



入賞されたみなさん

中1部門 (17名参加)

- 1位 片岡勇萬 (1の1)
- 2位 樋渡百音 (1の3)
- 3位 長谷川積歩 (1の2)

中2・中3部門 (10名参加)

- 1位 宮崎琴音 (2の1)
- 2位 井上美咲 (2の1)
- 3位 大杉 舞 (2の2)

朗読コンテスト



11月26日(木)、自習室Bにおいて、第49回朗読コンテストが行われた。参加者は中学生21名・高校生9名の合計30名と昨年度より大幅な参加者の増加となった。

▲ 参加者のみなさん

朗読内容は、本学院の図書館にある本であればどれでもよく、生徒のみなさんは司書の先生のアドバイスを受けながら本選びをしていた。当日は、宮下副校長の激励の言葉から始まり、中学生・高校生の順に朗読が行われた。結果は以下の通りである。

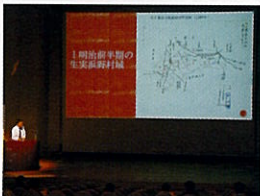
中学生の部

- 1位 原子依楓 (3の1)
- 2位 井上美咲 (2の1)
- 3位 鈴木彩心 (2の1)

高校生の部

- 1位 土田愛日奈 (2 E)
- 2位 吉田翔唯 (1 G)
- 3位 天野冴香 (2 B)

教員の取り組み ～社会科～



▲ 市史研究講座の様子

歴史の教員は、時に地域の歴史を掘り起こし、市民とともにその成果を学ぶこともある。千葉市では数十年にわたり市史編纂事業を進めている。毎年2回開催している市史研究講座では、市史編纂に関わる大学等の研究者や博物館学芸員、中高教員などが講師として登壇し、市史編纂活動の成果を市民に還元している。

10月11日(日)、本年度2回目の講座が千葉市生涯学習センターで行われ、市域の歴史に関心を持つ市民が来場した。当日は近世と近代の2つの報告がされた。私が担当したのは後者で、「生実浜野村の成立と展開」と題して、生実浜野村(現千葉市)を事例に、町村合併などで失われた地名からその地域と歴史の復元を試み、村役場や小学校の位置を巡る浜方と岡方の対立の様相を明らかにした。

当日は新型コロナ感染防止で、例年150名募集のところを95名に絞り込んでの実施となった。幅広い年齢層の市民が参加し、地域の歴史を改めて学ぼうとする熱意を感じた。(社会科 神山知徳)



▲ 授業の様子

私の授業では「ハイブリッド」「アクティブラーニング」「社会との接続」の3つを行っている。例えば、選挙に関する授業では現役都議会議員をオンラインで繋ぎ、リアルな政治家の仕事や都議会と都庁の違いなどについてお話し頂いた。また、大航海時代に関する授業では、cookpadにお勤めで「世界の台所探検家」として著名な方をお招きし、「大航海時代の人々が肉じゃがを作ったらどうなるか?」「未来の肉じゃがはどのように変わっているか?」など、時空を超えた歴史的想像力を働かせると同時に、創造力を養うような授業を実施した。これらの授業は、オフライン教室での協働的な学びとオンラインを組み合わせ「オンライン・オフラインのハイブリッド型」授業であり、生徒たちが「何を、どう学ぶか」「どうしたら学びたいと思えるか」を最優先としたアクティブラーニング授業である。そして、学校を社会と接続し、様々な「素敵な世界」「素敵な大人」に出会えるようデザインしている。(社会科 中山諒一郎)

SHOWA GAKUIN

活躍する部活動

新体操



▲表彰台にて

全て中止となったが、高校3年生を中心に「諦めない気持ち」を胸に夢の舞台があることを信じて練習を続けてきた。そんな中でのALL JAPANへの出場決定。感謝の気持ちが溢れるとともに、より一層良

今年度の日本最高峰の試合であるALL JAPAN (第73回 全日本新体操選手権)が11月20日(金)~22日(日)群馬県・高崎アリーナで開催され、種目別で3位、総合で5位という成績を収めることが出来た。

今年度は、コロナ禍により高校生生の3大大会である、選抜・インターハイ・国民体育大会が

い演技をしたいと心に誓った。しかし、ALL JAPAN直前にメンバーが虫垂炎で手術となり、出場も出来るかわからない状態に…。「何故、今…」と正直大変苦しい日々であった。そのような逆境も乗り越え、手術明けでも試合出場を決めたメンバー、そして、そのメンバーを信じて支えた他のメンバーや部員たちに感謝の気持ちでいっぱいである。ALL JAPANでの選手の雄姿は大変素晴らしく納得の演技であった。素晴らしい感動をありがとう。そして、メダル獲得、おめでとう。

監督 塩屋恵美子

メンバー 中村胡桃 3I 大内日愛 2F
加藤羽乃 2G 横山結那 2E
二木乃愛 2H 中川結己奈 1F
部長 丹野真帆 3F



硬式野球部



▲高校3年部員

絡み合い、11-4でコールド勝ちを取めた。翌日のZOZOマリンスタジアムでの試合はテレビ放映されたこともあり、生徒、保護者、教員のみさんが応援してくださいました。惜しくも2点差で敗れたが、最後の大会での3年生の全力プレーに後輩たちも胸を打たれた。

8月2日(日)に開幕した2020夏季千葉県高等学校野球大会に出場した。6日(木)の初戦の相手は、2年前の夏の県大会で準優勝した強豪校、東京学館浦安高校であった。苦戦を強いられることが予想されたが、序盤から走攻守がうまく

美術部

そこで得られるはずだった貴重な体験も失われた。ただ空白のまま次につなげるよりも、何か近い体験をさせられないかと考え、昨年から考えていた「庭」をテーマに展示会場作りと作品制作を有志の部員で行った。会場作りでは一つ

作品も、それぞれの庭のイメージを形にし、桜和祭にも負けずに展示を完成させることができた。

桜和祭の中止により、例年のような大きな展示発表の機会が無くなり、



▲展示の様子

奨学会だより ~活動報告~

(執筆:奨学会 木下会長)

地域の清掃活動

8月22日(土)の朝9時から、コロナ禍にもかかわらず130名余の奨学会理事の皆様にご協力をいただき、総武線本八幡駅から学校までのバス通りと、同じく本八幡駅から学校までの八幡小学校前の通り、そして学校裏の真間川沿いと校舎周辺の美化作業を実施いたしました。



▲バス通りで

大変な暑さの中、私も理事の皆様と一緒にゴミを拾いました。普段は気にしていないようなところにゴミが落ちていたり、たばこの吸い殻が落ちていたりして、自分への戒めとなりました。

日頃より、子どもたちが通学等で使わせていただいている道路を綺麗にさせていただくことによって、八幡地区の皆様への恩返しとなると考えて企画させていただきましたが、近隣自治会役員の皆様、市川警察署の担当の方、地域の皆様から数多くの感謝のお声をいただきました。また、マスコミ各局からの取材もございました。



▲真間川沿いで

参加された理事の皆様、お茶、ゴミ袋等の事前準備から当日の荷物運搬までしていただいた大橋先生、損害保険の加入や警察への道路使用許可申請等にご尽力いただいた事務室の水島様、本当にありがとうございました。

千葉県私学振興大会



▲大会の様子

森田健作千葉県知事、千葉県私学協会佐久間勝彦会長、河上茂千葉県議会議員代表をはじめ、大勢の国会議員、県議会議員の方々が出席され、知事や会長、議員の皆様からご挨拶をいただきました。

情勢報告の中で、私学を取り巻く環境が一段と厳しさを増しているものの、千葉県の私学に対する補助金が全国上位であること、公立学校に負けない施設で質の高い教育をしていること等の説明がありました。また、就学支援金や授業料減免の制度も拡充しているということでした。コロナ禍で経済も大きな打撃を受けていますが、来賓の方から私学教育に対する力強いお言葉をいただきました。最後に千葉県内私立学校のための共同宣言を採択して終了いたしました。



▲出席された理事の方々

SHOWA GAKUIN

学校説明会



今年度の学校説明会は、コロナウイルス感染拡大防止の観点から人数制限を設けながらの実施となった。「3密」を避けるため全体会は行わず、本校の教育方針・入試の概要等は動画配信とし、来校された方には施設見学・個別相談を実施するというスタイルで行った。動画配信では相手の反応がわからず説明に苦慮した点もあったが、内容や撮影場所を変え、写真・スライドを使用することによって変化のある動画づくりを心がけた。制作した動画は、配信期間内に何度も視聴することが出来るため有

▲ 少人数での施設見学(中学)

効であったという声が保護者の方から寄せられた。

新しい試みとして、オンラインを利用した個別相談会(中高)・在校生による各コース説明(高校)・模擬受験体験(中学)を行った。そして、IAコースの魅力がわかるIA授業見学会や、臨時学校見学会・個別相談会を随時実施し、多くの方にご来校いただくことができた。コロナ禍での取り組みは、説明会の在り方を見直すきっかけともなった。これからもより充実した説明会づくりを心がけていきたい。



▲ 学校説明会の様子(高校)

令和3年度 入試概要

中学校 併願	一般入試 (72名)				帰国生試 (20名)		
	算数 1科	算数 1科 オンライン 入試	マイプレゼン テーション ②	適性検査型 (特待生選考)	アドバンス ト チャレンジ (特待生選考)	帰国生② (特待生選考)	帰国生③ (特待生選考)
出願コース	全コース可		GA	IA・AA	IA・AA	全コース可	
試験日	1月20日(水)		1月20日(水)	1月22日(金)	1月25日(月)	1月20日(水)	1月25日(月)
	15:00~16:00~		15:00~	9:30~			15:00~
選考内容	算数	算数	自己表現文 プレゼンテーション 及び 質疑応答	適性検査Ⅰ 適性検査Ⅱ	2科 (国・算・英から2科目選択) もしくは 4科 (国・算・英から2科目選択 +理・社)	プレゼンテーション 及び 質疑応答 *プレゼン及び質疑応 答は日本語または英語 の選択が可能	2科+面接 (国・算・英から2科目選択) もしくは 4科+面接 (国・算・英から2科目選択 +理・社) *面接は日本語または英語 の選択が可能、受験生のみ

高等学校	前期選抜試験				後期選抜試験		
募集人員	男女 156名				男女 20名		
入試 区分	推薦入試		一般入試			一般入試	
	A推薦	B推薦/併願優遇	一般	帰国生	特色	一般	特色
	第1志望	併願	併願			併願	
出願コース	全コース可			IA・GA	Ad・Ath・GA	IA・GA	
試験日	1月18日(月) 9:00 会場:本校				2月15日(月) 9:00 会場:本校		
試験内容	「英語・数学・国語」 各50分間 (各100点) ・英語はリスニングを含む ・帰国生入試では国語に一部帰国生用の問題と作文を含む *次のコース等は上記3科目に以下の試験を追加 ・IAコース: 「英語面接」 ・TAコース 「理科・社会」 各50分間(各100点)を 午後実施 ・帰国生入試 「面接」 (日本語または英語)			・プレゼンテーション ・質疑応答 *IAコース: 「英語面接」を追加	・数理教科横断型問題 30分間 (100点満点) ・面接	・プレゼンテーション ・質疑応答 *IAコース: 「英語面接」を追加	
特待生制度	学業優秀特待生: 学力試験等の結果により選考				学業優秀特待生: 学力 試験等の結果により選考		

※試験について詳しくは生徒募集要項をご覧ください。